

平成30年

新春のごあいさつ

最上町長 高橋 重美



明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて現在、日本全国において『地方創生』が推し進められております。我が最上町の地方創生にとつて基本的にも最も大事なことは、この町に住む町民一人ひとりが自信と誇りを持つことであると思います。また、まちづくりの主体は行政ではなく、町民の皆様そのものにあります。

この地方創生という政策の中で、今

後ますます重要になることは、「若者が家族を持ち家庭を育む支援・町の担い手の育成支援・交流人口のいっそうの拡大」ということにあると考えております。町の魅力をしつかりと情報発信してPRすることは、交流人口の拡大はもとより、町の担い手の皆さんの励みともなりますし、ふるさと納税の拡大にもつながります。また、幼保小中高の組織連携をいっそう行い、人材を育てるためにも、若い人たちがこの町に残れるような仕組み・環境をつかっていくということがより重要であり

ます。それらを踏まえ、町として四つの柱となる政策を、昨年引き続き推進して参ります。

まず、子育て大国最上町を目指すということが一本目の柱でございます。子育て世代が家族を持ち育てるための支援をきめ細かく展開しながら、子どもたちが小学校・中学校・高等学校と進んでいく中で、組織の連携はもとより、地域と共に見守っていくということとを今後進めて参ります。子育てを地域が支えるという視点を大切にして参ります。

そして二つ目が、生涯現役社会構築に向けた健康と福祉のまちづくりであります。体の健康、心の健康、町全体の健康を目指すということがウエルネスタウン構想の視点であり、まちづくりそのものであると考えております。

三つ目は、産業振興と雇用の創出でございます。農観商工連携の取り組みを強化し産業基盤を確立させていくことや、集落営農・地域営農の取り組みを推進して参ります。平成30年度からの米政策の見直しについても、担い手

支援を見据えつつ、基幹産業の維持発展のために適切に対応して参ります。一人で気張らずにリーダーを中心とした仕組みの確立と基盤整備等の推進の中で、農業の再生を図って参ります。

四つ目は、バイオマス産業都市としての取り組みであります。本町の木質バイオマスの利活用は、里山再生やエネルギーの地産地消の観点からも、全国から注目を集めています。今後も再生可能エネルギーや幅広いバイオマスの利活用を通じて、町の産業振興を目指し、この取り組みを進めて参ります。

以上、四つの柱の政策を、行政だけでなく町民の皆様一人ひとりと協力しながら進めていくことが、最上町の目指す地方創生・自治協働のまちづくりでございます。より良い最上町を目指し、平成30年も皆様と共にまちづくりに励んで参りたいという決意を述べさせていただきます。今年一年が町民の皆様にとりまして素晴らしいものになりますことをご祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。